部会報告

幹事長日誌（平成17年1月～12月）

栗原誠一

1月元日　：おだやかな平成17年のスタート。今年も楽しいことがありそうだ。

1月13日（木）：広報委員会。木花光委員長の能力は凄い。私なんぞはいてもいなくても同じなので、今年も喜んで欠席させていただいた。

1月15日（土）：常任幹事・委員長会議。私が風邪をひいて準備が遅れたために、事前の協議が出来ず、皆さんに迷惑をかけてしまった。

2月2日（水）：IT委員会、個人情報保護法の勉強会。「保健医療と個人情報保護法とのかかわり」細谷邦夫氏（有限会社メディカルサポートシステムズ）。丁度、平塚市の医師会で厚労省委託事業の司会をしなければならず、聞けなかった。そしたらなんと、後日に動画入りのCDをいただいた、凄いもんですね。3月例会の際に個人情報のポイントを15分ほどで説明してもらうことになった。

2月3日（木）：神皮女医部隊初会合。大盛会だった由。

2月4日（金）：神奈川県医師会「高度医療に関する懇談会」。菅原信会長出席。

2月12～19日　：第4回感染症サーベイランス。データ集積所になっている石井則久のFAXが故障して、急遽北里大高須博先生に変更。

2月20日（日）：第68回日皮東京支部学術大会シンポジウムⅣ「在宅医療における皮膚科医の役割・皮膚科医への期待」に在宅医療部会の代表として栗原が講演。増田智栄子と浅井俊弥が共同演者に名を連ねた。

2月22日（火）：神奈川新聞のコラム「診察室」に「じんましん」の記事を掲載、川口博史。この原稿を医会のホームページにも転用させてもらった。もっともっと皮膚科を宣伝し、皮膚病を啓発しなければ。＊どうも「啓発」は馴染めない。「啓蒙」に比べて、軽々しい気がしてならない。

2月23日（水）：健保委員会

2月24日（木）：NHK・FMラジオ（横浜）「かながわ情報ボックス」に、山田利恵が出演。
「冬の皮膚疾患・乾燥肌・肌荒れ対策」

3月3日（木）：第12回在宅医療部会勉強会。コメディカルを含めて127名参加。「テーマ：皮膚欠損創用被覆材について」、①「皮膚科医と訪問看護ステーション、連携の現状と問題点」浅井俊弥、②「熱傷創治癒モデルからみた新しい局所療法」佐々木淳一（済生会神奈川県病院救急部）、③「モイストウンドヒーリング入門」塩谷信幸（北里大形成）。ドレッシング材は日進月歩というか、次々と新製品が出てくる。知らないものは使えないので、ついつい外用剤になってしまう。しかし、潰瘍を綺麗に治すことに関しては、モイストウンドヒーリングに軍配が上がる。皮膚科医も慣れなければいけないのだと思う。

3月6日（日）：第117回例会。125名参加。真鍋俊明先生のお

話はクリアーカットでアッカーマン教授を髣髴させた。講演内容のCDは希望者にコピー配布を許していただき、「お宝」もんをゲットした会員数知れず。

3月10日（木）：企画委員会

3月17日（木）：藤沢市皮膚科医会で高須博先生による「皮膚科領域の悪性腫瘍」講演を聴いた。この種の講演は定期的に開催すべきだ。散漫になりかかった注意を喚起してくれる。わかりきったことを、などと言わずに皮膚科医が音頭をとって、他科の医師にも継続的に生涯教育すべきだと思った。

3月22日（火）：由井虎史先生ご逝去。医会より生花をお供えした。

3月25日（金）：創立40周年記念例会打ち合わせ会。やっと概要が決まったけど、全部を自前でやるには困難がたくさん待っていそうで恐い。

3月29日（火）：神奈川県医師会治験セミナー出席。前回のセミナーで浅井俊弥先生が話をつけて下さってあり、講師の宮川政昭先生に医会の幹事長として挨拶した。

4月12日（火）：日皮より、イベルメクチンの朗報がとどいた。3月中に「特定療養費扱い」が決まっていたが、ここでメーカーの準備態勢が整い、晴れておおやけになった。

4月22～24日　：日皮総会。プログラムを見ただけでも、AAD総会（参加したことはないけど噂に聞いた）みたいに盛りだくさんで疲れそう。

5月10日（火）：会計ならびに会務の監査。監査では会計だけハンコをもらえば終了と思っていたが、昨年、花岡宏和先生に教わった。今年は、お金の動きをチェックしていただくだけではなく、会の運営や会務のこなし方にも意見やアドバイスをいただく機会だと、気を引き締めて監査をしていただいた。行動計画も提出してみた。

神奈川県医学会評議員に木花光、編集委員に川口博史を推薦した。（任期：平成17年4月1日～平成19年3月31日）

5月11日（水）：戸澤孝先生ご逝去、21日にご葬儀。医会より生花をお供えした。

ある年齢になると、想像以上に情報が届いていないことが考えられた。今回初めて、顧問や名誉会員で関係のありそうな会員にはFAXで連絡した。好評だったようで、以降も続けよう。

5月18日（水）：神奈川県看護協会平成17年度神奈川県訪問看護師養成講習会（第1回目）

「在宅で罹りやすい皮膚疾患とケア」、在宅医療部会より袋秀平を講師として派遣した。

5月21日（土）：常任幹事・委員長会議。「タバコと皮膚」のデータ集計が出来てきた。素晴らしいデータなので、上手に発表したいものだ。担当した原尚道先生は、これで「世界の原」になれるかも。

5月23日（月）：神奈川県医師会学校医部会幹事に武沼永治を推薦。再任。（任期：平成17年4月1日～平成19年3月31日）

5月28日（土）：産業医委員会。やっと産業医委員会が会員に役立つ委員会として活動しようという機運が見えてきた。ところが、また会合がぶつかって会長は出席できず。バッティングしないように「KDA booking table」を作ろう。

6月1日（水）：「タバコと皮膚」発表予演会。前回の会議で発表にインパクトが足りないと意見が出て、午後8時から浅井皮膚科クリニックにおいて、改訂版の予演会が開催された。本当に若人の熱意には頭が下がる。

6月11日（土）：第21回日臨皮臨床学術大会〈於・群馬県高崎市〉。特別シンポジウム「タバコと皮膚」は、300人以上の聴衆を前に発表。大成功。惜しむらくは質問と討論の時間がなかったこと。同夜、伊香保温泉ホテル小暮にて打ち上げ会。医会のメンバーを中心に20名が成功を祝った。これで原君も熟睡できるだろう。

6月22日（水）：健保委員会

7月3日（日）：第118回例会。124名参加。類天疱瘡は在宅医療でけっこう遭遇する。BP180の検索は、横浜

市大の高橋一夫先生に頼めばよいとわかった。講演の後に、けいゆう病院の河原由恵先生は慶応大学に血清を送っても大丈夫といっていた。西川武二名誉教授は水疱内容液は良い検体だと。疑わしい例があったら水疱液を採取して、横浜市大か慶応大にお願いすることにしよう。総会議事で、顧問に斉藤隆三、相馬良直、西川武二、松尾聿朗の４氏、幹事に川上民裕（聖マ医大推薦交代）が決まった。新年度の事業として、フットケア（担当：山田裕道）と治験（担当：浅井俊弥）が承認された。ともに、皮膚科の参入が遅れないように頑張ってもらおう。

７月6日（水）：企画委員会。創立40周年の記念講演として井上勝平先生（宮崎医科大学名誉教授）による「皮膚、皮膚病に関わる、言葉や文字の話」が了承された。もう一つ、専門医試験を題材にして聴衆参加型の企画を立てることに賛同を得た。誰に、どんな切り口で頼むか楽しみだな。

７月26日（火）：神奈川県医師会「社会保険指導者講習会」に高橋一夫、渡辺知雄を派遣。いつものことだが、この講習会の人員確保には苦労する。増田智栄子健保委員長と、次回からは前もって出席者を決めておこうと話し合った。

８月：今夏は猛暑が続き、６月からずーっと外来が忙しかった。初夏に毛虫皮膚炎が少なかった分がアセモとトビヒに振り替わったようだ。

８月26日（金）：第７回日本褥瘡学会が横浜で開催された。神奈川県地区の世話人打ち合わせ会に、皮膚科代表として袋秀平先生が出席する腹積もりだったところ、日程が合わず（というより相手が勝手すぎる）残念なことをした。頼まれたから世話人を出したのに、活動があまりに鈍い。袋先生がかわいそうじゃないか。いい加減な組織なのかな。

８月末～９月初旬：健保の神奈川県指導医であられる大城戸宗男先生が軽い脳梗塞のために７月31日より静養されている。指導医をお辞めになるので、後任について神奈川県支払い基金とも交渉して、神皮医会が後任を「口頭で推薦する」という形で収まった。鎌田英明先生のおかげです。10月より社保審査委員の渡辺知雄先生が指導医に。ウワサによると、大城戸先生の新規開業者への“指導”は「君、僕のこと知ってる？」「はい！」「じゃー頑張って」で終了するとの由。トモさんは、どんな風に面接するのかしら。

９月８日（木）：広報委員会延期。８月25日に予定されたものが、台風11号による大雨と強風のために延期された。

９月15日（木）：第14回在宅医療部会勉強会。コメディカルを含めて136名参加。①「在宅患者に望まれる皮膚科診療とは～アンケート報告第２報～」浅井俊弥、②「在宅医療におけるネットワークの必要性」岡田孝弘（オカダ外科医院）、③「よく見る高齢者の皮膚トラブルについて」田邉洋（金沢医大）。金沢医大の田邉先生はウワサどおりの巧みな話術とアクション。芸人風だが、講演の内容はしっかりとした素晴らしいものだった。だれだ、皮膚科のキミマロなんて言ったのは。

９月17日（土）：製薬メーカーとの連携に関する勉強会。常任幹事と委員長、近い将来に医会の企画を担当する幹事が参加。公正競争規約で、どこまで許されるか、どうすれば許されるのかをアステラス製薬の大恵所長（厚木）から説明を聞いた。例会の「参加費」という言葉は改める必要あり。出席した地方公務員Drから、国家公務員Drよりも地方の方が内規が厳しい、との情報もあった。お互い、捕まらないように仲良くね。

９月21日（水）：産業医委員会、勉強会開催準備小委員会。待望の産業医委員会主催の勉強会が１月に本決まり。委員諸氏のアイデアで、堅苦しくない楽しい会になりそう。

10月９日（日）：渡辺正雄先生ご逝去。ご家族より連絡が届いたのが11月８日で、大先輩の霊前にお花を贈りそこねてしまった。

10月12日（水）：神奈川県看護協会平成17年度神奈川県訪問看護師養成講習会（第２回目）

「在宅で罹りやすい皮膚疾患とケア」在宅医療部会より、第１回と同じ袋秀平を講師派遣した。

10月14日（金）：プロペシア発売に関連して、万有製薬が医会に挨拶してきた。執行部で、これを機会にヘアケア研究会を設けたら如何？と応対したが、あくまでも新発売の記念講演会だということで、企画は無くなって残念でした。話があったら速やかに交渉に入らないとダメだと痛感した。

10月15日（土）：常任幹事・委員長会議。第１回神奈川フットケア研究会、産業医委員会、ラミシール内服薬の調査など、面白そうな企画が目白押しだった。１時間で議事を済まそうと思ったが、40分も超過してしまった。

10月16日（日）：神奈川県薬剤師会で増田智栄子先生が「褥瘡の話」をしてきた。定例講演会になると良いな～。

11月６日（日）：「皮膚の日」イベント。1989年に“制定”された「いいひふ」に因んだ行事を、これまでも医会は手伝ってきた。そう、日臨皮が主催するのを名目上は共催して、あまりパワーを使わずにオワリというイメージだった。ところが、昨年から担当になった野村有子先生の頑張りに引きずられて、いまや皮膚科医療と神皮会を宣伝する一大イベントに急成長。神皮会としてのメイン行事になり、日皮と日臨皮は名目上の共催に書いといてあげるくらいの感覚になった。「肌トラブルを克服して美肌を取り戻そう」とのテーマを掲げ、多数の医会メンバーが出演や労務提供して、観光スポットになっている赤レンガ倉庫ホールを満員にしてしまった。一般参加者221名。合計の動員数320名。すごい能力、実行力。来年も楽しみだ。

11月19日（土）：この日に予定されていたＩＴ勉強会が、スポンサーとの交渉が不調のため先送りになった。ホームページの運用で費用を捻出できないかしら。

学校保健委員会。文科省による整形外科、神経科、皮膚科、婦人科の４科専門相談校医構想は、平塚市でのモデル事業がやっと始まった。補助金が県の教育委員会に下りるところがいかにも官僚らしいやり方だと思う。実際に仕事をする地域の医師会は、その地域の教育委員会とも連携しなければ動けないので、すこぶる無駄な手筈が多い。さらに言うと、適当に予算を消化して（第１回の会合で流用することを予算化していた！とんでもない）トラブルが起きずに過ぎれば良いと思っているようだ。健康な、健全な子供を育てよう、環境作りをしようという気概はまったく見られない。すでに厚木市で医師会主導の専門相談校医をしている小幡秀一先生と話していて、役人主導では医師の意欲が削がれてダメだと分かった。早速、大倉光裕先生と一緒に、平塚市医師会の担当理事さんに沢山の企画案を送り、アピールした。

第３回Joy Derma Club（女医部隊あらため）が開催されたそうで、内容をチョコッと伺った。確かに男の前では話しにくい内容もあるようだが、ますますパワーアップしてきた。

11月23日（水・祝）：第21回日臨皮三支部合同学術集会。今年は支部長県であり、かつ学術企画の当番。事務局長の金丸哲山、学術担当理事の伊東文行と米元康蔵が中心になって組んだプログラムがよかったためか、コクヨホールはほぼ満席になった。サーベイランス結果を講演した向井秀樹先生が医会の宣伝をしまくったのにはびっくりした。

第47回神奈川医学会総会。今年は横浜市大の教室に発表をお願いした。池澤善郎教授が講演され、毛利忍、川口博史、木花光、渡辺知雄出席。

11月30日（水）：健保委員会。医会会員のなかにはとんでもない請求方法をするものがいる。返戻や査定するだけで済ませておくと、個別指導や行政の手に渡ってしまう可能性がある。したがって、善良な会員には「健保委員会」の名の下に話しをして、大事にならないうちに注意を喚起してもらおう。余計なお世話ではなく、感謝されたいものだ。

12月4日（日）：第119回例会。91名参加。あいにくの雨と寒さで横須賀まで足を伸ばすのを躊躇した会員が多かったようだ。３月の例会で真鍋先生も名前を出され、木村鉄宣先生も師匠とおっしゃるアッカーマン教授はさぞかし面倒見が良いのかな。水疱症領域なら、古くはJordon、そのあとはKatzやStanleyといった、一流の研究者は人柄もいいらしい。

会員動向（11月27日現在）。正会員525名（新入会23名、退会４名）、法人会員55社、物故会員渡辺正雄先生（10月９日）。情報が遅すぎてご葬儀に伺えなかった。健保では大変お世話になり、アドバイスをいただいた先生なのに残念。

12月７日（水）：企画委員会。丁々発止まではいかなくとも、本音の意見を言い合って、久々に企画委員会らしい会議。長くて疲れたけど、楽しい会合だった。

今年はこれまで、あったら次号。

＜あとがき＞

今年も実に色々なことがありました。なかでも６月の日臨皮でP2005「タバコと皮膚」の発表は、医会という組織のあり方や活動の仕方を確認する絶好の機会でした。医会を個の集合体と捉えること、個なくては成り立たないことを、皆が自覚したのではないでしょうか。点が線になり、やがては面から立体へ、何次元へも拡張し続ける、有機体だと思います。医会の役員がすべき仕事も見えてきます。仕事に、修行に、遊びに、できるだけ多くの会員が参加できる環境を作り、互いに連携し、技を磨きあうのは何にも代えがたい楽しみになります。

原稿をまとめている12月には、2006年の医療関連政策に、どんな恐ろしいことが盛り込まれるのか分かりません。確かなのは、命までとられることはないことです。健康でありさえすれば、楽しいことはたくさんあります。医会会員一丸となって、皮膚科医を楽しむ方策を考えようではありませんか。おっと、ザイロリックを飲まなけりゃ。

2005年冬至前

部会報告

Joy Derma Club だより

Joy Derma Clubマネージャー　**野村有子**

●第１回　女医部隊結団式

日　時：平成17年２月３日（木）19:00～21:30
場　所：横浜ベイシェラトン「茜」
共　催：神奈川県皮膚科医会、明治製菓株式会社
参加者：神奈川県皮膚科医会会員の女医40名

プログラム

１．「イトラコナゾールについて」明治製菓株式会社東京支店学術部
　後発品となるイトラコナゾール錠「MEEK」について、先発品と同等の効果があることの説明がありました。

２．「アミノコラーゲン」ヘルスケア
　顆粒状で服用しやすいアミノコラーゲンの摂取により、肌の水分量・柔軟性・弾力性・皮膚の凹凸などの改善に効果のあることが報告されました。アミノコラーゲンのサンプルも参加者全員に配布されました。

３．「開会のご挨拶」毛利　忍（女医部隊隊長：横浜市立市民病院）

女医部隊が、女性ならではのきめ細かなアイデアで、神奈川県皮膚科医会を盛り上げ、皮膚科の発展に貢献するという趣意のもとに結成されたとのご挨拶がありました。

4．「女医部隊発足の経緯」増田智栄子（女医部隊副長：いずみ野皮ふ科）

昨年11月初めの「皮膚の日」イベントは野村有子先生が企画し、相原道子先生が講演されて、テンポ良くかなりの盛況でした。あとの打ち上げ会で、会長、幹事長から「女医さんはすごい。女医会ができれば面白い企画アイデアができるんじゃないかな」と話が出ました。その時は「フーン、そんな忙しいことは出来ないよ」と聞き流していました。

それから、11月23日の日臨皮三支部会の展示でミヨシ石鹸のコーナーがあり、「私達は洗浄する、保湿するということは意識していたけど、身に付ける衣類の洗濯によって皮膚に影響があるということを考えていなかったね。ところで石鹸とはなんぞやということも知らないね」と野村先生と話しをしまして、「これは何かの機会で勉強したいね。そうそう、女医会とかなんとか言っていたよね。ちょっと企画しない？」という流れになり、お茶を飲みながら１時間くらいでネーミングを決めました。要は「女医ならではのアイデアで遊び心で楽しみながら、面白いことがあったら不定期に集まって勉強しようよ」ということです。よろしく。

5．「皮膚科の診療で日常困っていること、そして役立つこと」野村有子（野村皮膚科医院）

日常の診療でよくあること、もっと知りたいことについていくつかのテーマをあげました。いずれも、なんとなくわかっている気はするけど、深く掘り詰めて勉強したことの少ない内容です。今後女医部隊では、患者様の診療に直接お役に立てるような内容を中心に、それぞれのテーマに造詣の深い人や先生、メーカーさんなどをお招きして、講演会や勉強会を開催していきたいと思います。

①洗剤・石鹸について
②肌着について
③化粧品全成分表示について
④サプリメント・食品添加物について
⑤水について
⑥その他

いまさら人には聞けないことの目安箱、ピーリングのスタンダードな方法の実演講習会などの要望もありました。

◎最後に、聖マリアンナ医科大学教授、溝口昌子先生の乾杯のご発声の後、情報交換会が開催されました。参加者お一人ずつ自己紹介をしていただきました。「学会にはなかなか敷居が高くて参加できないが、このような気軽な会だとぜひ参加していきたい」「女性同士だと細かなことまで本音で何でも話せてとてもよかった」「診療に直接役立つことの話がきけてよかった」「話している内容が楽しくておトイレに行く時間ももったいなかった」などの声がありました。次回の会合での男性医師の参加については、「女性同士のほうが気軽でいい」「男性がいると、このように話せない」という意見が圧倒的に多く、しばらくの間は女医だけで会合や勉強会を開催していくことになりました。

●第２回　Joy Derma Clubセミナー

日　時：平成17年５月14日（土）18:00～21:00
場　所：横浜ベイシェラトン「清流」
主　催：ヤンセンファーマ株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
参加者：神奈川県皮膚科医会会員の女医49名
テーマ：「洗う」

プログラム

1．「真菌について～パルス療法1周年経過のデータをあらう～」鈴木英介（ヤンセンファーマ株式会社）

イトリゾールのパルス療法は爪の伸びるスピードが速くなること、ドロップアウトが少なく患者様のニーズにあっていることが紹介されました。

2．「衣類を洗う」安藤夫紀子（ミヨシ石鹸株式会社、消費生活アドバイザー）

繊維を洗うってどういうこと？　今日から役立つ肌に優しい石鹸講座として、石鹸・中性洗剤・洗濯洗剤の基礎についてのお話がありました。

3．「肌を洗う」根本彰子（ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社）

洗顔料の活用法と肌への負担の少ないクレンジング洗浄法が紹介されました。

4．「皮膚の環境整備・洗浄剤について」新井裕子（新井ヒフ科クリニック）

洗顔料、シャンプー、リンス、歯磨き粉、洗濯洗剤などを選ぶときの患者様への問診のコツが披露されました。

◎なお、「女医部隊」という名称についても検討されました。募集で28ものアイデアが集まり、投票の結果、「Joy Derma Club」に決定しました。それに伴い、隊長はキャプテン毛利忍、副長はサブキャプテン増田智栄子、局長はマネージャー野村有子、企画斑はプロジェクトチーム相原道子・村上富美子・河原由恵、各班長は川崎チームリーダー望月明子、横浜チームリーダー能勢由紀子、湘南チームリーダー木花いづみと生まれ変わりました。

●第３回　Joy Derma Clubセミナー

日　時：平成17年11月19日（土）18:00～21:00
場　所：ブリーズベイホテル「風待」
共　催：神奈川県皮膚科医会、田辺製薬株式会社
参加者：神奈川県皮膚科医会会員の女医37名
テーマ：「肌に触れるもの」

プログラム

1．「蕁麻疹患者様のニーズは？　インターネット調査による意識調査結果報告」田辺製薬株式会社

蕁麻疹患者様がもっとも薬に求めていることは、「早くきく」ということ、そしてタリオンは早くきいて安くて安全であることが紹介されました。

2．「肌につけるものに対するかぶれの症例供覧」大沼すみ（大沼皮フ科）

日常診療の中でよくみられるかぶれの症例を、ICDGRスタンダードアレルゲンで原因を追究して発表されました。

3．「肌トラブルからうまれたこだわりのインナー」宇江佐りえ（リエッセンス代表、タレント）

痒い体の体験談、五感を大切に暮らすこと、そして糸から選んだインナー作りの苦労をお話しされました。

4．「女性の肌ストレス軽減を目指した生理用品の開発」豊島泰生（花王株式会社サニタリー研究）

生理時の悩みの実態、ショーツ内気候と皮膚から捉えた肌ストレス要因、そして肌環境を快適にするための生理用品からの新しい提案が発表されました。

◎第４回は平成18年５月に「サプリメント」を、第５回は平成18年11月に「毛」をテーマにセミナーを開催予定です。たくさんの女医の皆様の参加をお待ちしております。

なお第２回、第３回のセミナーの詳細な内容は「皮膚病診療」の「女医の声」に投稿してありますので、ご参照下さい。

部会報告

産業医委員会だより

平松正浩

平成17年５月28日（土）午後６時より第６回産業医委員会を開催しました。「会員のために役に立つ委員会」を目指して以下の活動を計画しました。（敬称略）

①職業性皮膚疾患の調査

調査票を作成して配布。その結果をまとめる。調査票の内容、配布の規模などについては今後検討。

担当者：宋寅傑（責任者）、日野治子、吉田秀也、平松正浩

②勉強会の企画

会員にとって身近で役に立つ産業医学的話題から選ぶ。

例）医療機関内での安全管理（液体窒素の取り扱いなど）、過重労働、針刺し事故、健康診断

担当者：尾見徳弥（責任者）、黒澤傳枝、齋藤蓉子、望月明子

①、②共通のアドバイザー　加藤安彦、栗原誠一、佐藤龍男、新関寛二

その後それぞれの先生方の御努力によりまして①、②とも着実に進んでいます。調査につきましては宋先生により原案が作成され、検討中です。平成19年の日本皮膚科学会東京支部総会で成果の発表を予定しております。勉強会は平成18年１月19日（木）に開催しました。

「診療報酬引き下げ」という見出しを新聞記事でよく目にするようになりました。まだまだずっと先のことかと思っていました産業医、予防医学関係者が陽の当たる場所へ出る日もそう遠くないのかもしれません。「産業医委員会入会の希望者が多くて人数制限をした」なんて夢を見てしまいました。

部会報告

広報委員会だより

木花　光

厚木市立病院の伊東慶悟先生は県外へ転勤となり、委員を辞任されました。相川洋介、浅井俊弥、川口博史、馬場直子、宮本秀明、山本修の各先生と私の計７人で担当しています。

神奈川県医師会報の分科会だよりは、今まで幹事長が書かれていましたが、広報活動であるとのことで、当委員会が今年度より下請けすることになりました。初仕事は、同報平成17年８月号（No.660）に載っています。

神皮13号発行に関する第１回の広報委員会は平成17年８月25日に開催予定でしたが、ちょうどその夜に台風がやってきて、９月８日に延期しました。ところが、またしても台風で、９月８日も開催が危ぶまれましたが、前日に通り過ぎてくれました。やはり13号というのは、アポロ13号のように何かが起きるようです。

13号の内容としては、今までのシリーズを継続ということになりました。シリーズ開業についても続々と開業されておりネタが尽きません。

今回の表紙はぐっと趣をかえて、日本刺繍にしました。宮本秀明先生のお母様が、刺繍の先生をされていたとのことで、御自宅の衝立として作られた１メートル四方もある立派なものだそうです。

メーカーの合併が相次いでメーカー数が減るので、広告を集めるのがなかなか困難となっています。広告媒体としての価値を高めるためにも、より多くの先生からの玉稿をお待ちしております。

特別付録

ママ、この白い人は誰？（シンガポール動物園にて）

＜特別付録＞

赤道直下のこととて某社の強力なサンスクリーンを塗ったらバカ殿のように真白になりました。ベルトにつけているのは蚊取器です。さすが用心深い。シンガポールの名誉のために言っておきますが、動物園でも池のすぐそばの所にしか蚊はいませんでした。我が家の庭の方がよほどヤブ蚊が多い。

家内と娘は３メートル、30キロはありそうなニシキヘビを肩にかけて、写真をとりました。して、感想は？「ヘビィ」

部会報告

IT委員会だより

浅井俊弥

仕事というのは、次から次へとあるもので、なかなか時間をかけて取り組めない現状では、どうしても先送りになってしまうのですが、IT委員会は本年度、こんな活動をして来ましたので、ご報告いたします。

①平成17年４月から、鳴り物入りで始まった個人情報保護法。委員会としてもそれなりに準備し、医会の中で会員に啓発しましたが、今となっては何が問題だったのか、良く分かりません。当院では、「保険証コピーしていいですか」と聞くようにして半年以上たちましたが、「何で聞くの？」と言われて、「それは私がこの情報を利用して、銀行口座を作ったり出来ちゃうんですよ」なんて会話は、さすがになくなりました。守秘しなければならない個人情報を盗み出して、医療機関を脅す「モレモレ詐欺」は数例あったみたいですが、幸い現時点では横行していません。漏洩保険は入らなくて済みそうですね。

②11月に計画した「病院向けの電子カルテ勉強会」は思わぬ障害があって、延期になりました。この先１～２年で電子カルテを導入する病院が比較的急速に増えることを見込み、機種選択の段階から、会員の皆さんに情報提供できればと考えていましたが、「皮膚科」の特殊性を考慮していて、しかも全科に共通のインフラは、企業としてPRする段階に未だ達しておらず、皮膚科！を強調したあまり、各メーカーとも尻込みをしてしまいました。また、公取委の関係か、IT勉強会という名目では製薬会社の共催も難しく、でもやることはIT勉強会なので、どうしようもありません。解決すべき問題点が色々と残りましたが、なんとか知恵を絞って、今年の夏には開催したいと思っています。

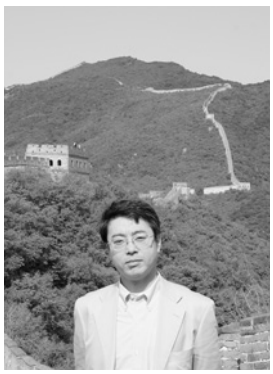
③今のところはたまにしか耳にしない「医師主導型治験」に関しては、厚労省が今後、事業として推し進めていく方針で、そのためにはどうしても医師会が受け皿にならざるを得ません。しかし、医師会は治験ネット

ワーク整備のために厚労省から丸投げされた２億円ほどの予算を、何に使っていいのか悩んでいる状況です。医薬品産業界にとってはもっと小回りのきく集団の方が相手にしやすいはず。そこで、専門医・学識経験者の集団である医会の登場となるわけです。皮膚病治療薬の治験を医会で請け負う構図は、さほど遠い先のことではありません。そこで、IT委員会では本年度末から、治験ネットワークの準備を進めていきます。たぶん当委員会として、もっとも大きな仕事になるはずです。

④HPの管理・運営は、私個人の負担がちょっとばかり多いのですが、まあ、何とかやっています。皆さんはご存じないと思いますが、月に6000のアクセスがあって、googleでもyahooでも、「神奈川」「皮膚科」の検索で、神奈川県皮膚科医会はトップに出てくるようになっています。ますます更新に励まないといけません。また、確固たる収入源がないため、経済的にはお荷物だった当委員会も、医会のHPの中に企業のHPへのリンクを置くことによって、「リンクを置かしてあげる料」をいただけそうなめどがたちましたので、ちょっと、ほっとしています。

ということで、マニフェストみたいになってしまいましたが、これからもIT委員会をよろしくお願いいたします。ご意見・ご要望をお聞かせ下さい。kda@asai-hifuka.com
（メンバー：栗原誠一・戸澤孝之・野村有子・袋　秀平・杉田泰之・天野隆文・長島典安・菅野聖逸・浅井俊弥）

特別付録　中学の担任の先生を連れていった北京旅行にて


万里の長城

北京市内の地下鉄

北京前門のレストランにて。小龍包が一かご160円也

部会報告

学校保健委員会10年の歩み

―皮膚科専門校医（専門相談医）の実現に向けて―

岩井雅彦

神奈川県皮膚科医会会員の皆様、いつも学校保健活動にご協力ありがとうございます。おかげさまで、神奈川県医師会先導のもと開始されました文部科学省の学校専門校医モデル事業も２年目が終わろうとしています。いよいよ全国的な事業展開も最終段階に入ります。

さて、私が学校保健活動を始めるようになったきっかけは、平成７年、第11回日臨皮総会の学校保健のシンポジウムを拝聴したことです。その時、ご講演して下さった日本医師会の先生の結論が、「皮膚科医も内科校

医として学校医になり、大いに活躍して欲しい」ということでした。皮膚科専門校医としてではなく内科医としてと言われたため、かなりのショックを受けました。まったく皮膚科専門医の立場に言及されなかったからです。皮膚科医は皮膚科専門医の立場から、学校保健に貢献することが重要であることを確信致しました。

学校保健の分野において、これまでは主に内科、眼科、耳鼻咽喉科の３科が対応してきました。しかし近年、児童生徒、教職員を取り巻く環境の変化に伴い、専門性の高い学校保健への取り組みが必要とされるようになってきています。こころの問題、いじめ、薬物乱用等で精神科医が、スポーツ外傷・筋骨格系の発育異常で整形外科医が、性に関する問題等で産婦人科医が、そしてアトピー性皮膚炎をはじめとするアレルギー疾患等で皮膚科医が、それぞれ専門医的立場で必要となってきています。

そのため神奈川県医師会では、平成６年より専門校医（専門相談医）の配置の検討が開始されました。神奈川県皮膚科医会では、平成８年より学校保健検討委員会を発足させ、平成14年より学校保健委員会と改名し、今日まで神奈川県医師会の方針に対応してきました。平成９年１月には神奈川県皮膚科医会会員全員に対し学校保健に関する意識調査を行い、回答を寄せられた252人の会員のうち137人（54%）の会員から「皮膚科専門の学校医の依頼があった場合に協力できる」という結果が得られました。この結果はこれから学校保健を推進していくうえで大変勇気づけられました。平成９年２月には神奈川県医師会学校医部会幹事会へ神奈川県皮膚科医会より初めて新関寛二先生、原紀道先生と私の３人がオブザーバーとして出席しました。その後神奈川県医師会では、平成10年には「学校医と専門相談医との連携について」のディスカッションが行われました。平成11年には、既存３科の校医に対し、専門校医（専門相談医）の必要性についてのアンケート調査が行われ、内科医67%、眼科医85%、耳鼻咽喉科医79%が必要であるという結果が得られました。平成12年には、校長と養護教諭に対し、同様の調査が行われ、校長83%、養護教諭74%が必要であるという結果が得られました。平成13年には、県下の精神科医、整形外科医、皮膚科医、産婦人科医に対し、同様の調査が行われ、精神科医80%、整形外科医69%、皮膚科医69%、産婦人科医69%が必要であるという結果が得られました。

日本臨床皮膚科医会では、平成５年に学校保健推進委員会を設立し、私は平成10年より８年間委員をさせていただいております。日本臨床皮膚科医会でも、皮膚科専門校医（専門相談医）の実現に向けて一致団結して全国的に推進しております。

日本医師会では、平成14年より専門校医（専門相談医）制度についての検討が開始されました。平成15年より、神奈川県、千葉県、大阪府の３医師会においてモデル事業「各科専門医の学校保健活動における実践活動の研究」が開始されました。その詳細は第35回全国学校保健・学校医大会（平成16年10月30日、日本医師会主催）で報告されています。特に神奈川県医師会の専門４科体制が全国のモデルとなっています。また、平成16年より日本医師会学校保健委員会へ皮膚科として初めて入れていただきました。そこで皮膚科の立場から専門校医（専門相談医）の実現に向けて、意見を述べさせていただいております。

文部科学省では、日本医師会の要望を受け、「児童生徒が１日の大半を過ごす学校生活をともに健康で安全に送ることができるよう、児童生徒の様々な健康問題に対応できる地域の専門医を学校に派遣し、日常的に児童生徒の心身の健康管理を行う必要がある」と言及しました。そのため学校の要請により各診療科の専門医の派遣を行う等の地域保健等と提携し、児童生徒の心身の健康相談や健康教育を行うモデル的な事業として、「学校・地域保健連携推進事業」の名で、平成16年度より、新規予算２億1100万円を計上することになりました。これは、１地域当たり448万円に相当し、47都道府県全域で実施できるもので、しかも全額国庫予算で３年間の継続事業であります。平成17年度の予算は１億6868万円で、１地域当たり358万円に相当し、平成16年度より約20%減額されています。

表は、文部科学省平成17年度事業「学校専門校医（専門相談医）制度」参画状況アンケート結果です。平成17年４月から６月にかけて、日本臨床皮膚科医会・都道府県学校保健担当者に、参画状況のアンケート調査を依頼して回答していただいた、平成17年12月現在の結果です。

皮膚科が参画できた都道府県は28（60%）に達しました。その他の科では精神科39（83%）、整形外科26（55%）、産婦人科34（72%）で、４科すべてが過半数を超えました（○印は参画している、×印は参画してい

表：文部科学省平成 17 年度事業「学校専門校医（専門相談医）制度」参画状況アンケート結果

都道府県名	担当者	何科が参画していますか					学校保健委員会へ参加
		皮	精	整	産	その他	
北海道	山田和宏	○	○	○	○	小、眼、耳鼻	○
青森	長島弘明	○	○	×	○		△
岩手	黒田啓美	○	○	○	○		×
宮城	只木行啓	×	○	○	×		×
秋田	佐藤静生	×	×	×	×		×
山形	佐藤紀嗣	×	○	○	×		×
福島	伊藤信夫	×	○	×	○		×
茨城	小泉雄一郎	○	○	○	○	脳外	○
栃木	藤平正利	×	○	○	○		△
群馬	大川司	○	○	○	○		○
新潟	永井透	×	×	×	×		×
長野	池川修一	×	×	×	×		×
東京	岡村理栄子	×	○	×	×		○
埼玉	長村洋三	○	○	×	×		△
千葉	西林聰武	○	○	○	○		○
神奈川	岩井雅彦	○	○	○	○		○
山梨	寺本輝代	×	×	×	○	小	×
静岡	萩原民郎	×	○	×	×		×
富山	佐藤英敏	×	○	×	○		×
石川	力丸修	○	○	○	○		×
福井	青山文代	×	×	×	×		×
岐阜	鹿野由紀子	×	○	○	○		×
愛知	羽田野徹夫	×	×	×	×		×
三重	野村茂	×	○	×	○		×
滋賀	江竜喜史	×	○	×	×		×
京都	武田敏夫	○	○	○	○		○
大阪	夜久正治	○	○	○	○		○
兵庫	鶴圭一郎	○	○	○	○		○
奈良	横尾正	○	○	×	○	循環器科	×
和歌山	森庸亮	○	×	○	×		×
鳥取	阿曽三樹	×	○	×	○		×
島根	福代新治	×	○	×	○		×
岡山	難波英彦	○	○	○	○		×
広島	岡野伸二	○	○	○	○		○
山口	安野秀敏	○	○	○	○		○
徳島	高橋智津子	○	○	×	○		○
香川	森岡眞治	×	○	×	○		×
愛媛	佐伯光義	○	○	○	○		×
高知	猿田隆夫	○	×	○	○		×
福岡	桐生博愛	○	○	○	○		△
佐賀	西隆久	○	○	○	○		×
長崎	牛島信雄	○	○	○	○		×
熊本	下村洋	○	○	○	○	小、眼、耳鼻、歯	×
大分	市川弘城	○	○	×	○		×
宮崎	青木洋子	○	○	○	○		×
鹿児島	島田辰彦	○	○	○	○		○
沖縄	安里哲時	○	○	×	×		×

47 都道府県中、皮膚科：28（60%）、精神科：39（83%）、整形外科：26（55%）、産婦人科：34（72%）、4 科で参画している：20（43%）〈北海道、岩手、茨城、群馬、千葉、神奈川、石川、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、山口、愛媛、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島〉

（平成 17 年 12 月現在）

ないを示す）。また 4 科で参画できた道府県は20（43%）でした。本事業が 3 年間継続され制度化された後に、皮膚科として新たに参画することは困難が予想されるため、まだ参画できていない19（40%）の地域では、今年度または来年度中に参画することが重要です。また、都道府県医師会の学校保健委員会へ皮膚科が参加している都道府県は、13（28%）で、今年度参加予定の都道府県を合わせると17（36%）でした（○印は参加している、△印は今年参加予定、×印は参加していないを示す）。今後本事業に参画するためには、都道府県医師会の学校保健委員会へ参加することが重要です。具体的な事業展開としては、児童生徒、教職員、保護者を対象とした、健康教育講演活動が多くの地域で行われています。その他健康相談が、個人面談や電話相談等の方法で行われています。皮膚科での主な講演内容は、アトピー性皮膚炎をはじめとするアレルギー疾患、紫外線

予防対策、おしゃれによる障害、皮膚の学校伝染病等が多く取り上げられています。今後全国で、多くの皮膚科専門医による幅広い講演活動を通じ、児童生徒、教職員、保護者に適切な助言、指導、教育を行っていき、学校保健の中で皮膚科の重要性を広めていきたいと思います。

私はこれまで約10年間皮膚科の学校保健推進に努めて参りましたが、神奈川県医師会、日本医師会学校保健委員会の中で、何度か皮膚科は学校専門校医としては必要ではないと言われてきました。その都度、皮膚科医の必要性についてお話をさせていただき反論して参りました。私は常々皮膚の病気は、皮膚科が診るのが当然であると思っています。皮膚の病気を他科の先生が診る機会が相当あるため、皮膚科は学校専門校医としては必要でないと言われてしまうようです。私たち皮膚科医は、自信をもって皮膚科専門校医制度を推進させていきたいと思います。

なお、神奈川県皮膚科医会、学校保健委員会では、今年も武沼永治委員が県医師会学校医部会で、小幡秀一委員が厚木愛甲地区専門校医事業で、大倉光裕委員、栗原誠一幹事長が平塚地区学校・地域保健連携推進事業で、それぞれ活躍されております。また、菅原信会長、北原敬二委員、村上通敏委員、田辺俊英委員には、常にご助言ご指導をいただいております。

最後に、これまで皮膚科専門校医制度を推進できましたのは、日本医師会常任理事・雪下國雄先生、神奈川県医師会理事・富永孝生先生の皮膚科に対するご理解ご配慮のおかげです。両先生には大変感謝しております。

これからも会員の先生方のご協力をよろしくお願い致します。皮膚科医の未来が明るいことを信じています。

部会報告

庶務だより

鎌田英明

個人情報保護法の施行に伴い、当医師会では下記の通りの保護方針を表明いたします。

個人情報保護方針

神奈川県皮膚科医会

神奈川県皮膚科医会では、個人情報保護法の施行に伴い、同法の趣旨に沿って会員の個人情報を安全に管理するよう努めます。

＜個人情報の取り扱いについて＞

1．当医会における個人情報は、会員の氏名、生年月日、住所、電話番号、ファックス番号、出身大学、卒業年次、その他個人を識別できるものをいいます。

2．登録された個人情報は以下の目的に利用します。

　1）会員名簿の作成。

　2）会誌、各種通信文章等の送付。

　3）その他、医会の事業遂行に必要とされる場合。

3．登録された個人情報は、事務員、委託業者も含め、機密保持に万全を期します。

4．登録された個人情報は、法令に定められた場合を除き、本人、会員以外の第三者への開示は行いません。

5．登録された個人情報の、変更、取り消しは、会員本人からの申し出があれば随時可能です。また、当医会を退会された場合は同会員の個人情報は削除します。